

第1学年 国語科指導案

平成30年11月30日(金) 2校時

1年生教室 横山 和広

宮本 敏江(支援員)

1 単元名 のりもののことをしらべよう 「いろいろなふね」

2 単元の目標

書かれている内容を事柄ごとに正しく読み取り、ほかの本で読んで調べたことをまとめることができる。

3 学級の実態

本学級の児童は、「読むこと」では、「どうやってみをまもるのかな」で、事柄の順序に気を付けて内容を正しく読むことを学習した。挿絵と文をつないで内容を理解させることで、書かれていることを読み取ることができた。読み取った事柄を、発問に対応させて自分の言葉で説明していくことで、叙述の内容を認識し、理解につなげていった。

「書くこと」では、「ぶんをつくろう」や「こんなことをしたよ」で主語と述語の関係に注意して、つながりのある文を書くことを学習した。「えにつきをかこう」では、出来事を文章に表し、友達に思いを伝えることができた。

4 学習指導計画 (総時数 13時間)

次	時	主な学習内容
一次	1・2	○ 乗り物のことを調べて、読み取ったことをカードにまとめるという学習課題を知り、学習の見通しを立てる。
二次	3～8 (本時 6/13)	○ 学習課題を意識しながら、「やく目」「つくり」「できること」の観点に沿って、それぞれの「についての記述を読み、読み取ったことをワークシートにまとめる。 ○ 「いろいろなふね」と並行して、ほかの乗り物について書かれた図鑑や本を読んでいく。
三次	9～12	○ ほかの本や文章を読んで好きな乗り物について調べ、カードにまとめる。
四次	13	○ 調べたことを互いに読み合い、感想を交流する。 ○ 単元の学習を振り返る。

5 研究主題を受けて

(1) つけたい力

・書かれている内容を事柄ごとに正しく読み取り、ほかの本で読んで調べたことをまとめる力。

(2) 主体的・対話的・深い学びの実現に向けて

○ 主体的な学びのために

「のりものカード」作りを言語活動に設定し、学習の流れを掲示することで、学習の見通しや目的意識をもって学習に取り組めるようにする。

○ 対話的な学びのために

友達と書いたことや考えたことを交流し、話し合う目的を明確にしたペアでの対話を取り入れ、自信を持って話し合い活動に取り組めるようにさせる。

○ 深い学びのために

それぞれの船の特徴や役割、機能について見つけたことを統合し、比較して考えさせることで理解を深めさせる。

6 本時の目標と評価

【目標】 ○ 「ぎよせん」の内容を読み取ることができる。 [読む]

【評価】 ○ 乗り物の「やく目」「つくり」「できること」を表すだじな言葉や文を見つけながら読んで、ワークシートにまとめる。 [発表・ワークシート]

7 本時の研究の視点と手立て

視点1 主体的に学ぶための『学びのプラン』

① 既習の学びを活かした学習展開の工夫

一人学びとして「やく目」「つくり」「できること」を鉛筆で線を引かせ、そこからペアで確認させた後、全体で話し合いをしてからワークシートにまとめさせる。

同じ文型の読みを繰り返すことで、「読むこと」や「書くこと」に難しさを感じる児童に、自信をもって取り組めるようにする。

視点2 対話的に学ぶための『学びのスタイル』

① 目的を明確にした協同学習の工夫

話し合う目的を明確にしたペアでの対話を取り入れ、教科書のどこに線を引いたかを確かめる。

視点3 深い学びのための『学びのコーディネート』

① 深い学びにつなげる発問構成やワークシートの工夫

発問を通して挿絵や内容とをつなぎ、書かれていることを読み取らせる。また、読み取ったことを短く文にまとめさせる。